

地下鉄車内での携帯電話等の取り扱いについて

地下鉄においては、平成12年度から車内では携帯電話の電源をお切りいただくようお願いしてきました。

しかしながら、車内での携帯電話の取り扱いについて、お客様から見直しを求める声が多く寄せられていること、また最近、情報通信機器の使用形態が通話からメールの送受信やデータ通信などに変化していることなどから、お客様の利便性の向上を図るため、走行中の車内における携帯電話等のサービス提供の向上に向けた取り組みを進めてまいります。

1 車内での携帯電話の取り扱いの変更について

本年7月から順次、車内を「携帯電話電源オフエリア」と「マナーモードエリア」に分け、携帯電話を利用できるエリアを設定しています。

「携帯電話電源オフエリア」では電源をお切りいただき、それ以外の場所では、携帯電話をマナーモードに設定の上で通話をご遠慮いただくよう取り扱いを変更しました。

《参考》「携帯電話電源オフエリア」施工状況

つり革をオレンジ色に、床をえんじ色のしま模様に変更し、「携帯電話電源オフ」を周知するシールを掲出しました。改修工事は、8月末までに完了しました。

○ブルーライン



○グリーンライン



2 走行中の地下鉄車内における携帯電話サービスについて

7月から順次、車内における携帯電話の取り扱いを変更してきましたが、「社団法人 移動通信基盤整備協会（以下：協会）」より、走行中（ずい道内）の車内でも携帯電話等でメールやインターネットが利用できるよう通信設備を整備することについて要望があったことから、これを受諾しました。

これにより、地下鉄ずい道内における事故、災害発生時等の緊急通報や、緊急情報の収集などにも携帯電話を活用できることとなり、利便性に加え、安全性も向上します。

(1) スケジュール

平成23年 7月から 現場調査（基地局、ケーブル敷設、電源供給等）

10月から ブルーライン、グリーンライン同時進行で工事施工予定

(2) サービス提供開始時期

平成24年春以降

(3) 整備費の負担等

ア 設備整備や維持管理に要する経費は、整備主体である協会が負担します。

イ サービス提供に要するケーブル及び機器類の交通局施設への整備に対して、協会から行政財産の目的外使用料を徴収します。

ウ 車内における携帯電話の利用マナーの向上に向けた取組について、協会としても実施するよう要請しています。

<参考> 他の地下鉄事業者の動向

すでに駅間メール可能	札幌市営地下鉄、福岡市営地下鉄
今後導入予定（新聞発表）	東京都営地下鉄、大阪市営地下鉄、東京メトロ